

こだま会企画「てく・テクの会」 2024年

## 千葉県北部方面バスツアー

(水郷佐原・伊能忠敬記念館・住井すゑ文学館・福田村事件慰霊碑ほか)

今年のバスツアーは、千葉方面です。

“小江戸”の風情を感じさせる水郷佐原の街並み散策と日本全国を測量し、日本地図完成に大きく貢献した伊能忠敬記念館を見学します。

ヤマサ醤油工場見学や地球の丸く見える展望館、『橋のない川』の作者・住井すゑ文学館、関東大震災直後に起きた「福田村事件」慰霊碑などを訪ねます。

みなさまのご参加をお待ちしています。



佐原の街並み

☆日時 2024年 **9月26日(木)～27日(金)**

☆集合場所時間 9時20分 横浜駅東口地下そごう前広場集合

☆スケジュール(予定)

1日目 **9月26日(木)** 横浜駅9時30分出發

⇒水郷佐原街並み自由散策・昼食(伊能忠敬記念館見学後、2時間程度をフリータイム＝自由散策とします。\*裏面参照)⇒香取神社  
⇒猿田神社⇒大新旅館(泊)・銚子電鉄銚子駅近く・昭和レトロな旅館

2日目 **9月27日(金)** 旅館発⇒ヤマサ醤油工場見学⇒地球の丸く見える展望館

⇒霞ヶ浦・住井すゑ文学館⇒福田村事件慰霊碑⇒横浜駅東口(17時30分頃)

☆参加費 **28,000円**(バス代、見学料、宿泊費、保険等)

先着20名

参加をお待ちしています。

★27人乗りサロンバスでゆったり  
快適なバス旅!



### 【注意事項】

◎お宿は、男女別の相部屋になります。

◎宿泊等にキャンセル料が発生します。詳細については参加者に通知します。

【申込・連絡先】\*参加希望者は、**9月9日(火)**16時まで事務局長までFAXください。

☆神奈川県職労連退職者こだま会事務局＝毎週火曜日(10時～16時まで開局)

電話 045-212-3179 FAX 045-212-3178

メールでも受け付けます kodama@kodamakai.sakura.ne.jp

こだま会 行き FAX 045-212-3178

千葉方面バスツアー に申し込みます。

お名前 お1人目( 性別 )

お2人目( 性別 )

連絡先 住所(〒 )

自宅の電話( ) 携帯電話( )

# バスツアーの見所

## ▼水郷佐原“小江戸”を自由散策

“北総の小江戸”と呼ばれる人気観光地、千葉県香取市・佐原。水郷の町でもあり、小野川沿いを中心とした地区は、江戸の雰囲気そのままに土蔵造りの商家や町屋が軒を連ねています。

ここでは、伊能忠敬記念館を見学後、自由にまち並み散策します。小江戸さわら舟めぐり(@1300円、30分乗船他)をするのもよし。樋橋など街並みを散策するのもよし。うなぎ料理などのご当地グルメ等に舌鼓を打つのもよし。酒蔵見学をするのもよし。(フリータイム時間2時間)

それぞれに楽しい時間を過ごしていただきます。

ガイドマップを用意します。



## ▼地球の丸く見える展望館



地球の丸く見える丘展望館は、北総地区(千葉県北東部)で一番高い愛宕山の頂上に位置しています。屋上の展望スペースから見える風景に、“地球が丸い”という事を実感できます。天気の良い日は、360度大パノラマで、富士山や筑波山を見ることが出来ます。

## ◀住井すゑ文学館



住井すゑ(1902～1997)は奈良県出身の作家です。昭和10(1935)年に、夫・犬田卯(いぬたしげる)の郷里である牛久村城中(現・牛久市城中町)に家族で移住し、以来この地で執筆活動を行ない、自由と平等を訴える作品を数多く発表しました。なかでも大作『橋のない川』は大ベストセラー小説となり、映画化もされました。

## ▼福田村事件慰霊碑

事件は大正12年9月6日、関東大震災から5日後、福田村(現在の野田市)で起きた。



香川から訪れた薬売りの行商の一行が、村にある神社で休憩していたところ、地元の自警団に朝鮮人と疑われたことをきっかけに一方的に襲われ、15人のうち子どもや妊婦を含む9人が殺害された。当時、「朝鮮人が井戸に毒を入れた」などと流言飛語が飛び交う中、各地では政府の呼びかけに応じて自警団が結成。街頭では朝鮮人への尋問が繰り返され、中には暴行を加え、殺害に至る事件も多発。福田村を通った行商は日本人だったが、香川の方言を聞いた自警団が朝鮮人だと決めつけたことが事件の引き金になったとされる。

殺害を主導した自警団員8人はその後の裁判で、懲役2年から10年に処せられたが、その後、昭和天皇の即位による恩赦で釈放された。

(ちばWeb特集から引用)

2023年、森達也監督により映画化された。

## ▼大新旅館 昭和レトロなお宿

大新旅館の創業は今から360年前の1645年(正保2年)、銚子を代表する宿、“料理の大新”として、伊藤博文、大隈重信、後藤新平、島崎藤村…など多くの要人・文人に愛されてきました。

